

モータースポーツ振興策についての答申

2018年 5月 23日

第2次JAFモータースポーツ振興ワーキンググループ

第2次JAFモータースポーツ振興ワーキンググループ委員名簿

- 座 長： 柿元 邦彦 ニッサンモータースポーツインターナショナル株式会社
スーパーバイザー
- 委 員： 井原 慶子 レーシングドライバー
JAF加盟クラブ「Love drive」代表
- 委 員： 今井 智己 株式会社デルフィス プロデュース局
(トヨタ自動車株式会社より出向)
- 委 員： 小椋 道生 本田技研工業株式会社 ブランド・コミュニケーション本部
- 委 員： 小西 俊嗣 株式会社ガレージ・K 代表取締役
JAF加盟クラブ「モータースポーツクラブ奈良(RC NARA)」代表
- 委 員： 七田 定明 シチダガレージ 代表
JAF加盟クラブ「グラベルモータースポーツクラブ(GRAVEL)」代表
- 委 員： 田中 秀尚 株式会社三菱総合研究所 主席研究員
- 委 員： 土井 誠 株式会社岡山国際サーキット モータースポーツ部長
- 委 員： 水野 雅男 株式会社アクセル 代表取締役
- 委 員： 渡邊 信治 株式会社フジテレビジョン スポーツ局専任局長

(敬称略)

目 次

I	はじめに.....	4
II	第2次答申.....	5
	1. 現状認識と今後の動向.....	5
	2. 具体的な答申.....	6
	1) モータースポーツ振興委員会（仮称）の設置.....	6
	2) J A Fモータースポーツ専門部会の委員構成の適正化と部会間の連携.....	6
	3) 第3次J A Fモータースポーツ振興ワーキンググループの設立.....	6
	4) 答申の進捗状況の検証.....	7
	3. 答申に至る具体的な議論.....	7
	1) ドライバーオブザイヤーについて.....	7
	2) オートテストについて.....	7
	3) 女性層の取込みについて.....	8
	4) ドライバー主体のレースについて.....	8
	5) イベントの企画、運営について.....	8
	6) J A Fによる広報活動について.....	9
	7) ビッグイベントの集中について.....	9
	8) J A Fの役割について.....	9
	<添付資料>.....	11
	資料1 第1次答申の実施状況.....	11
	資料2 日本の主要国と関連主要指標等の比較.....	13
	資料3 ㈱J A Fメディアワークス資料「読者反応」.....	14
	資料4 ㈱J A Fメディアワークス資料「番組視聴者アンケート」.....	16
	資料5 電動化や自動運転に関する動向.....	17
	資料6 オートテスト実施状況.....	18
	資料7 2018年モータースポーツ専門部会委員年齢及び男女構成.....	18

I はじめに

JAFは2006年10月、モータースポーツの活性化を図るためにモータースポーツ振興ワーキンググループを立ち上げ、モータースポーツ界の各分野が連携して取り組むべき抜本的な振興策の検討を行い、2008年6月にその答申書を発表した。

それ以降JAFでは、答申書に基づき各種振興策に取り組んできたが、答申書の発表から10年が経過して社会情勢や国内外のモータースポーツを取り巻く環境も徐々に変化してきた。

このような状況の中、JAFは、本ワーキンググループを再結成しモータースポーツ振興策を検討すべきとのJAFモータースポーツ審議会からの答申を受け、JAF会長に提言することを目的として、2017年4月、外部の有識者10名から成る「第2次JAFモータースポーツ振興ワーキンググループ」(座長：柿元邦彦)を設置した。

第2次ワーキンググループは、2017年4月より2018年2月までの期間、モータースポーツ振興という命題に対して中長期の視点で今何をすべきかを考察するとの方針で、異業種を含めた外部有識者からも意見を聴取し、また現状や課題を客観的に把握するため外部研究機関による関連調査報告も踏まえ、多角的に今後のJAFのモータースポーツ普及・振興のあり方を検討した。

以上

II 第2次JAF答申まとめ

第1次JAFモータースポーツ振興ワーキンググループの答申が出されて10年が経つ。その答申に基づき過半のものは小修正を加えながら実施されてきたが、時代の変化が早く答申内容も時代にそぐわなくなってきた。そこで第2次JAFモータースポーツ振興ワーキンググループとして検討を重ねた結果、モータースポーツ振興について下記答申を行う。

1. 現状認識と今後の動向

日本のモータースポーツの現状は、世界の自動車大国の一つとして改善すべきことが多いとの指摘がある。しかしグローバルに日本のモータースポーツを見た場合に、イギリスなどモータースポーツ先進国に、イベント開催数やライセンス保有者数など外形的な面では劣っている点はない。(資料2)

一方でモータースポーツ文化というような、国民一般の人たちへの浸透度が劣っているのは明らかで(資料3)、それはモータースポーツの認知度が低く、親しむ機会が少ないのが要因と思われる。ひいてはそれが、観客減、スポンサー離れ、放映・視聴者減、参加者減、オフィシャル減、若者のクルマ離れ、女性の取込み不足などと言われる悪循環をもたらしていると考えられる。

更に今後のことを考えると、様々な調査結果からも分かるように、モータースポーツは中高年世代に支えられている(資料4)と同時に、若者のクルマ離れが進んでいるので、このまま手をこまねいていると経年とともに衰退していく可能性が高い。

加えてクルマ産業やクルマ社会に激震をもたらす可能性のある、電動化や自動運転の時代(資料5)が徐々に迫ってきている。これはモータースポーツが、大なり小なり自動車産業を後ろ盾とする限り悪影響を受ける可能性が高い。

一方で2018年から、賞金額の高い鈴鹿10時間レースや、首都圏に近い富士スピードウェイでの24時間レースなどが始まり、秋に集中する大きなイベントもスーパーフォーミュラとWTCR*1がコラボするなど新たなポジティブな動きもある。加えて2019年からはWRC*2の開催も予定されている。

以上を鑑みるとピンチとチャンスが同時に訪れようとしているわけで、この機にチャンスを生かし、ピンチをチャンスに変える取り組みが期待される。

そこで、広く世間に知らしめ関心を持つ人を増やし、関心を持つ人にモータースポーツを体感する場を提供するために、他のスポーツと同じ様に、「トップを光らせ、底辺を拡大する」方策を主体として振興を図りたい。

2. 具体的な答申

1) J A Fモータースポーツ審議会直属のプロモーション・タスクフォース「モータースポーツ振興委員会（仮称）」を設置して下記について具体的な検討を行う。尚、委員構成には審議会委員から数名のほか、異業種からも配属する。

- ① トップを光らせる ⇒ 広く社会に知らしめる
- ・ ドライバーオブザイヤーの設定と顕彰
大手マスコミを巻き込んだ選考プロセス
価値の可視化（1, 0 0 0万円の報奨金など）

- ② 底辺を拡大する
- ・ オートテストの普及（資料6）

- ③ 女性の活躍する舞台作り
- ・ 現存する女性の活躍を目的とした各種取組み（W i M活動等）の推進
 - ・ 女性オフィシャルの取込み
 - ・ 女性を表彰する工夫

④ J A Fの持つ強大な広報媒体のネットを含む活用策

- ⑤ 魅せるモータースポーツ化などプロモーション全般の検討
- ・ オーガナイザーの努力の顕彰
 - ・ ネット社会を活用しての若者の取込み
 - ・ ドライバー主体のカテゴリー検討
 - ・ 観戦者側の視点に立つ各種取組みの促進

2) J A Fモータースポーツ専門部会の委員構成の適正化（資料7）と部会間の連携強化

- ・ 年齢分布の適正化
- ・ 各専門部会に女性委員を1名以上配置することが望ましい。
- ・ F I A情報の迅速化と精度向上の為にマニファクチャラーズ部会の活用と連携強化

3) 変化する時代に対応するため、5年後を目途に第3次J A Fモータースポーツ振興ワーキンググループを設立

- 4) 答申の進捗状況を、毎年モータースポーツ振興委員会（仮称）で検証する

3. 答申に至る具体的な議論

1) ドライバーオブザイヤーについて

(効果)

- ① 日本一速い（活躍した）唯一の存在として世間に訴求できる
- ② 権威ある顕彰の対象となり得る
(総理大臣杯、園遊会、天皇杯、叙勲等)
- ③ メディアからアプローチする手法が増える
(ニュース、スポーツドキュメンタリー、バラエティ等)
 - ・ 但し選定基準が、客観的でフェアであること
 - 他のスポーツの例に倣い以下の人たちの投票によるのも一方法(例) JMS 記者(含む東京中日スポーツ)
一般大手新聞社の運動部記者
一般大手テレビ局スポーツ局記者
スポーツ誌、JAF、日本自動車工業会
- ④ ドライバーは人であり、スター誕生につながり、子供たちの憧れの存在となる
(クルマは間接的に取り上げられる)
 - ・ 但し、価値の可視化が必要で、名誉だけでなくそれに値する報奨金などを要す

(課題)

- ① スーパーフォーミュラ、スーパーGT、ラリーは異なるカテゴリー故、ドライバーの評価が難しいが、プロ野球のMVPも投手、野手と成績評価基準が違う中で決定
- ② 報奨金や大手マスコミ、日本自動車工業会との連携など

2) オートテストについて

(効果)

- ① クルマを操作する喜びと、人の本能たる競い合いが同時に楽しめる
- ② モータースポーツライセンスを所持しない方でも、ロールバー／ヘルメットなしの自家用車等で、手軽に参加できる
- ③ 免許取得前の子供を含め家族ぐるみで体験できる
- ④ これからの自動運転化時代にも、活用の可能性がある
- ⑤ 大学自動車部のフィギュアとの連携も視野に入れば、拡大発展の可能性はある

(課題)

- ① 安全対策の徹底 (開催規定及びガイドライン、指導の徹底)
- ② 場所、オフィシャルの確保 (J A F 各支部、自動車販売店、駐車場を有する郊外ショッピングセンターとの連携など)

3) 女性層の取込みについて

男女が同数いる社会で、モータースポーツは他のスポーツに比べて極端に男性に偏向してきたので、女性の参加拡大は大きな振興策となる。他のスポーツが身体的特徴に配慮して男女別であることに倣い、女性の活躍を目的とした各種取組み (W i M*3 活動等) を現状どおり支えながら、次のようなことを検討する。

- ・女性の表彰枠の確保
男女混走のレースで女性だけ対象の表彰台 / J A F 表彰式
- ・オフィシャルを含めた広範囲の女性参加者の顕彰
- ・J A F 広報による定期的発信
- ・各 J A F 専門部会の委員に女性を 1 名以上任命することが望ましい

4) ドライバー主体のレースについて

モータースポーツの勝敗には車両やエンジンなどのハードの寄与度が高く、プレイヤーたるドライバーの技量の巧拙が観客や、視聴者から見えにくい。そこに自動車メーカーの参戦する意味があり、その関与度によってカテゴリーの盛衰が左右されることになる。既にコスト面からの制約が競技規則などに反映されつつある。

これからの社会情勢や技術動向から考えて、自動車メーカーの関与度は下がってくる可能性がある。

従ってこれからモータースポーツの振興を図るには、他のスポーツ同様にハードよりプレイヤーの超絶技巧が観客から見え且つ、勝敗に影響する形態が必要である。その為の技術、競技規則の作成検討を J A F として行う。

5) イベントの企画、運営について

各サーキットは大小を問わず、モータースポーツを支えるべく集客などに多大な貢献をしているが、その尽力を次のような基準で表彰や格付けという形で顕彰する。

- ・女性用の設備の充実度
- ・モータースポーツの魅力たるその迫力とスリリングな雰囲気作り
- ・スマホなどの活用による若いファンへの訴求力
- ・特に若いオフィシャル集めの工夫

6) JAFによる広報活動について

JAFは自動車オーナーに直接訴求する可能性のある会報誌1億2千万部／年と、モータースポーツライセンス保有者に届く60万部／年の会報誌を発行している。これらは活用次第で多大な貢献が期待できるので、今改革を進めているインターネットの活用を含めて、モータースポーツ広報の刷新を行う。

7) ビッグイベントの集中について

現在日本における世界選手権レベルのイベントは、9月から11月の秋に片寄って集中している。この時期は日本選手権レベルのイベントもタイトル争いが佳境を迎える時期でもある。これではマスコミもファンも、ましてや一般人にモータースポーツに関心を持って注目して貰う環境にはなり得ない。

アメリカのビッグなスポーツ（NFL、MLB、NBA、NHL、PGA、NASCAR*4など）は、カテゴリーを超えて年間のスケジュールを微妙にずらしている。結果、人々は多くのカテゴリーのスポーツのファンになり得るし、年間を通じて様々なスポーツを楽しめる訳である。

国際的な調整事項なので簡単ではないが、開催時期の分散についてJAFやオーガナイザーの努力が必要である。

8) JAFの役割について

4輪車のモータースポーツの唯一の統括団体として、また大規模で、所轄官庁と近い関係にある一般社団法人として、モータースポーツ振興に果たせる役割は多い。

特に日本は、行政機関との調整が複雑で、一方で調整が済めばお墨付きともなり得るので、市街地レースの開催などの調整機能の発揮を期待する。

統轄団体として、FIAや他国のASN*5との連携や情報収集の迅速化や精度向上が必要だが、マニファクチャラーズ部会が得意とする分野でもあるので、連携を深めて対処する必要がある。また技術、競技規則の制定、モータースポーツの統轄と普及促進を行う立場から、振興に努める必要がある。

具体的な活動は、各専門部会が行うことになるが、その委員構成の年齢層が偏っており、現状認識や将来のことも考慮して若年層の取り込みを行う。

また、近年ドライバーやオフィシャルが高齢化しつつあり、将来を見据えた若手取り込みへのアプローチが急務と思われる。サーキット、イベントオーガナイザー、メーカー等への働きかけを含め、若年層がモータースポーツに入りやすい環境の整備について専門部会等でも今後活発な議論が望まれる。

<添付資料>

資料 1

第 1 次答申の実施状況

資料 2

日本と主要国との関連主要指標等の比較

資料 3

(株) J A F メディアワークス資料抜粋「読者反応」

資料 4

(株) J A F メディアワークス資料「番組視聴者アンケート」

資料 5

電動化や自動運転に関する動向

資料 6

オートテスト実施状況

資料 7

2018年モータースポーツ専門部会委員年齢及び男女構成

<略称>

- ※1 WTCR : 世界ツーリングカーカップ
- ※2 WRC : 世界ラリー選手権
- ※3 WiM : Women in Motorsport
- ※4 NASCAR : National Association for Stock Car Auto Racing
- ※5 ASN : National Sporting Authority (国内モータースポーツ統轄機関)

資料 1

第 1 次答申の実施状況

第 1 次答申では以下の振興策が答申されているが、実行されているものは半数に留まっている。赤字が実行中の内容。その他の黒字は未実施内容。

1. 短期・中期振興策

1) モータースポーツのPRによる理解促進

(1) わかりやすいモータースポーツ解説

- ①「JAF Mate」誌でのわかりやすいモータースポーツ解説(連載)
 - ・2016年より、毎号1ページをモータースポーツコラムとして連載中。
- ②「JAF MOTOR SPORTS」誌での初心者向け解説(連載)
 - ・2016年より、初～中級者を対象にした企画記事を掲載。

(2) モータースポーツ情報の積極的発信

- ①JAFプレスセンターの開設とモータースポーツ広報担当者の育成と常駐
- ②モータースポーツ記録の収集とモータースポーツ競技結果データベースの再構築
 - ・2009年7月末に新しい競技結果データベース(主要レース)を公開。
- ③一般紙へのニュースリリースと競技写真の提供
- ④一般メディアにおける担当記者との接点強化
- ⑤メールニュース等によるモータースポーツ情報の発信
 - ・JAFモータースポーツFacebookを開設し、MS情報を配信。
- ⑥FMラジオ等の積極的活用

2) モータースポーツの観戦・参加促進

(1) 観戦促進

【初心者向け】

- ①市街地における自動車レースの実現の検討
- ②競技会観戦を楽しむためのツアーの催行

【リピーター向け】

- ③観戦者の視点に立った規則の立案および競技運営
 - ・赤旗中断規定の改善やスーパーフォーミュラポイントシステムの変更など、その視点で各種の規則の見直しを行なっている。
- ④各種イベント案内のインターネット配信やIT活用
 - ・2016年より、SNS(主にFacebook)により、全日本各選手権全戦の開催告知を実施。
 - ・2017年4月より、全日本選手権競技会のダイジェスト映像を含むモータースポーツ報道番組を月1回インターネット動画サイトに公開。
- ⑤モバイルツールを使った総合検索サイトの検討
- ⑥各種競技会場における子供向けコーナー開設やアトラクションの実施

(2) 競技ライセンス所持者や登録クラブの継続

- ①ライセンス申請手続きの簡素化と料金見直し
 - ・2016年より、ライセンス非所持者のスポーツ走行経験によるAライ講習会受講が可能になっている。
- ②登録クラブ申請手続きの簡素化と料金見直し
 - ・クラブ成立人数の緩和や、更新提出書類の簡素化を実施。

(3) 参加促進

- ①体験型競技会(イベント)の推進
 - ・JAF各支部でのモータースポーツ体験の実施、2016年からの新種競技オートテスト導入など。
- ②時代に即した競技の企画または認可
 - ・2013年から「ドリフト」、2015年から「オートテスト」を公認競技化。

<p>③ナンバー付き車両によるレースの促進 ・2012年より、複数の車両銘柄による混走レースも実施できるよう規則緩和。</p> <p>④シリーズを通じたプロフェッショナル・オフィシャル集団の組織化 ・スーパーGTシリーズに続き、2009年よりフォーミュラニッポンでレースディレクターやテクニカルデリゲート制度導入、また同年レースディレクターを国内競技規則で明文化。</p> <p>⑤モータースポーツ諸規則の見直しと整備（一部簡素化） ・2008年国内競技規則改正他、適宜規則の見直しを実施。</p> <p>⑥スカラシップの設立</p> <p>(4) 増大する非公認競技会への対応</p> <p>①「新しい価値観を持つ人々」のイベントへの安全対策</p> <p>②ライセンス不要で楽しめるモータースポーツ環境の創造 ・2015年より、「オートテスト」を開催中。</p> <p>③非公認イベントとの連携</p> <p>3) モータースポーツと社会との関係改善</p> <p>①交通安全運動等への参加 ・他部署（交通環境部、広報部）と連携して著名レーサーによる交通安全運動への参加を実施。</p> <p>②大規模集客イベントにおけるモータースポーツ車両同乗体験会の実施</p> <p>③モータースポーツのPRイベントへの協力 ・モータースポーツジャパンのJAF Mateでの告知、他。</p> <p>④モータースポーツ車両を使った高速道路開通式への参加</p> <p>⑤身体に障害を持つ人々との接点の拡大 ・メディカル部会を中心に、できるだけモータースポーツ活動ができる方向での審査を行なっている。</p> <p>4) モータースポーツ文化の確立</p> <p>①JAFモータースポーツ表彰式の改善 ・表彰式とパーティーを分割する2部形式の採用、プレゼンターに著名人登用、プロモーター表彰の同時開催、など。</p> <p>②モータースポーツ殿堂の設立検討</p> <p>③「モータースポーツの日」の制定の検討</p> <p>④FIAとの連携および支援によるモータースポーツ振興行事の検討 ・FIA MS安全基金の審査に合格し、救助訓練用にフォーミュラニッポン車両モノコックを購入し救助訓練機材を製作し、各主催者に持ち回りで貸与している。</p> <p>⑤モータースポーツ産業の育成協力</p> <p>⑥モータースポーツキャンペーンの実施</p>	<p>2. 長期振興策</p> <p>1) ASN業務の見直し</p> <p>①英米（MSA*1/ACCUS*2）の事業調査</p> <p>②JAFモータースポーツ業務の見直し</p> <p>③モータースポーツ競技保険の検討</p> <p>2) ポテンシャル層を対象とした活動</p> <p>①ライセンス取得年齢の引き下げ</p> <p>②子供に向けた情報発信のための環境整備</p>
---	--

<略称>

※1 MSA : Motor Sports Association Limited UK

※2 ACCUS : Automobile Competition Committee for the United States FIA Inc.

資料 2

日本と主要国との関連主要指標等比較

日本と英国のモータースポーツ関連主要指標を以下に示す

	日本	イギリス
登録クラブ数	1,002 (1位)	740 (2位)
競技ライセンス所有者数	48,187 (2位)	28,603 (4位)
オフィシャル/ボランティア数	19,379 (4位)	10,659 (7位)
公認サーキット数	54 (10位)	66 (8位)
イベント数	848 (7位)	1,556 (1位)

(出所:FIA) (日本のデータは2016年統計による)

主要世界選手権開催状況 (2017年) を以下に示す

	日本	イギリス	ドイツ
F1*1	○	○	×
WEC*2	○	○	○
WTCC*3	○	×	○
WRC*4	×	○	○
合計	3	3	3

(出所:FIA)

なお、イギリスではチューニングパーツ、ショップ数の多さ、シニアによるヒストリックカーイベント、BRSCC*5等の名門クラブの存在など、グラスルーツレベルの活動が盛んでモータースポーツ全体を支えている。

<略称>

- ※1 F1 : フォーミュラ1世界選手権
- ※2 WEC : 世界耐久選手権
- ※3 WTCC : 世界ツーリングカー選手権
- ※4 WRC : 世界ラリー選手権
- ※5 BRSCC : British Racing & Sports Car Club

資料 3

JAFMate誌でのMS記事への読者反応【連載】

2017年12月号 よかった記事アンケート結果(はがき、ネット各5,000 / 計10,000通)

順位	詳細順位	記事タイトル	ページ数	はがき得票数	ネット得票数	合計得票数	%
1	1	特集・踏み間違い、シフトミスのヒヤリ・ハット体験	5	1125	888	2013	20.13%
2	2	Mateセーフティ	7	965	1029	1994	19.94%
2	4	危険予知	1.5	304	451	755	7.55%
2	5	ユーザーテスト	2	266	286	552	5.52%
2	9	シチュエーション別運転レッスン	1.5	236	154	390	3.90%
2	12	事故ファイル	2	119	138	257	2.57%
2	24	Mateセーフティ	7	40	ネット無し	40	0.40%
3	2	今、日本を走ろう。・徳島県 徳島市、小松島市、美波町、	10	1157	740	1897	18.97%
4	3	インタビュー・大泉洋	3	293	497	790	7.90%
5	6	世界遺産	1	23	471	494	4.94%
6	7	幸せって何だろう・中島京子	1	233	214	447	4.47%
7	8	JAF優待・お知らせ・地方版	8	248	178	426	4.26%
8	10	簡単！おいしい！薬膳ごはん	1	187	85	272	2.72%
9	11	賞金クロス	1	42	219	261	2.61%
10	11	JAF Mate Neo	3	89	146	235	2.35%
10	20	エクササイズ	0.5	30	56	86	0.86%
10	21	ほくほ、車と生きてきた	0.67	27	52	79	0.79%
10	25	Dr.泉谷の人生相談	0.67	17	13	30	0.30%
10	26	長尾智子のお菓子風土記	6	17	23	40	0.40%
10	28	MINIATURE CAR LIFE	0.67	1	8	9	0.09%
10	29	JAF Mate Neo	3	8	ネット無し	8	0.08%
11	13	スローエイジング入門	1	161	55	216	2.16%
12	14	おたより王国	2	109	97	206	2.06%
13	15	JAFストーリー	1	93	66	159	1.59%
14	16	あの道がそう言った／片岡義男	2	47	73	120	1.20%
15	17	表紙・カバーストーリー(地球の仲間たち)	2	61	58	119	1.19%
16	18	CAR LIFE Q&A クルマ何でも質問箱	1	80	37	117	1.17%
17	19	JAFレポート	2	52	42	94	0.94%
18	22	モーターズスポーツコラム	1	11	68	79	0.79%
19	23	国内交通ニュース	1	22	29	51	0.51%
20	27	デジタルコンテンツ紹介	1	2	8	10	0.10%
				5000	5000	10000	

2017年11月号 よかった記事アンケート結果(はがき、ネット各5,000 / 計10,000通)

順位	詳細順位	記事タイトル	ページ数	はがき得票数	ネット得票数	合計得票数	%
1	1	今、日本を走ろう。・大分県 別府市、日出市、国東町	10	1304	920	2224	22.24%
2	2	Mateセーフティ	5	1189	979	2168	21.68%
2	3	事故ファイル	2	548	362	910	9.10%
2	4	危険予知	1.5	355	456	811	8.11%
2	9	シチュエーション別運転レッスン	1.5	227	161	388	3.88%
2	20	Mateセーフティ	5	59	ネット無し	59	0.59%
3	2	特集・この秋、宿坊デビュー	6	840	641	1481	14.81%
4	5	インタビュー・松たか子	3	226	314	540	5.40%
5	6	幸せって何だろう・宮本輝	1	287	249	536	5.36%
6	7	世界遺産	1	35	468	503	5.03%
7	8	JAF優待・お知らせ・地方版	8	171	241	412	4.12%
8	10	JAF Mate Neo	3	147	195	342	3.42%
8	15	ほくほ、車と生きてきた	0.67	67	93	160	1.60%
8	18	エクササイズ	0.5	47	69	116	1.16%
8	25	Dr.泉谷の人生相談	0.67	13	14	27	0.27%
8	27	長尾智子のお菓子風土記	0.5	2	14	16	0.16%
8	28	MINIATURE CAR LIFE	0.67	8	5	13	0.13%
8	29	JAF Mate Neo	3	10	ネット無し	10	0.10%
9	10	賞金クロス	1	69	201	270	2.70%
10	11	交通事故をなくしたい	1	69	181	250	2.50%
11	12	おたより王国	2	124	115	239	2.39%
12	13	スローエイジング入門	1	162	72	234	2.34%
13	14	簡単！おいしい！薬膳ごはん	1	127	95	222	2.22%
14	16	あの道がそう言った／片岡義男	2	60	83	143	1.43%
15	17	JAFストーリー	1	65	63	128	1.28%
16	19	表紙・カバーストーリー(地球の仲間たち)	2	31	45	76	0.76%
17	21	CAR LIFE Q&A クルマ何でも質問箱	1	39	18	57	0.57%
18	22	国内交通ニュース	1	24	31	55	0.55%
19	23	モーターズスポーツコラム	1	7	42	49	0.49%
20	24	JAFレポート	2	21	25	46	0.46%
21	26	デジタルコンテンツ紹介	1	3	14	17	0.17%
22	30	小特集・Hikari	1	0	8	8	0.08%

全般的に「特集」が上位にくる傾向があるが、連載のなかでもMSへの関心は低い。

JAFMate誌でのMS記事への読者反応【特集】

JAF MATE '16年10月号			
アンケート集計結果			
	通		%
1 おくに自慢navi24 北海道稚内市・山梨県北杜市	1,364		27.28%
2 Mateセーフティ	1,129		22.58%
危険予知		440	38.97%
シンプル運転術		262	23.21%
事故ファイル		317	28.08%
Mateセーフティ		110	9.74%
3 特集・初心者マークのR1講座	433		8.66%
4 あったカー対談65 把握都凱斗	417		8.34%
5 おたより王国／クルマの法律	331		6.62%
6 JAF優待／お知らせ／地方版	297		5.94%
7 小特集・ご当地個性派パーカー	282		5.64%
8 もの忘れが気になる世代の安全運転vol.5 運転中のヒヤリ〜	159		3.18%
9 JAF ストーリー ウナギ釣り	139		2.78%
10 JAF Mate Neo	120		2.40%
コロロとカラダのエクササイズ		34	28.33%
美食同源		27	22.50%
JAF Mate Neo		19	15.83%
ぼくは、車と生きてきた		17	14.17%
なんちゃってエンジン		10	8.33%
絶景！ウワサのダムめぐり		5	4.17%
すごい先人に会いに行く		3	2.50%
ニッポンの骨の衆		3	2.50%
ミュージックメイト		2	1.67%
11 風の詩	117		2.34%
12 E3レポート 電気で走る未来へ	74		1.48%

2017年10月号 よかった記事アンケート結果(はがき、ネット各5,000 / 計10,000通)							
順位	詳細順位	記事タイトル	ページ数	はがき得票数	ネット得票数	合計得票数	%
1	1	今、日本を走ろう。北海道 帯広市、広尾町、えりも町	10	1582	941	2523	25.23%
2		Mateセーフティ	5	905	838	1743	17.43%
2	3	危険予知	1.5	393	493	886	8.86%
2	7	事故ファイル	2	245	179	424	4.24%
2	9	シチュエーション別運転レッスン	1.5	234	166	400	4.00%
2	22	Mateセーフティ	5	33	ネット無し	33	0.33%
3	2	特集・東京モーターショー、あの頃と今	6	623	1099	1722	17.22%
4	4	知っておきたい認知症	1	269	261	530	5.30%
5	5	交通事故をなくしたい	1	278	206	484	4.84%
6	6	インタビュー・佐藤琢磨	3	164	268	432	4.32%
7	8	JAF優待・お知らせ・地方版	8	200	202	402	4.02%
8	10	幸せって何だろう・安田兼津紀	1	184	208	392	3.92%
9		JAF Mate Neo	3	127	149	276	2.76%
9	17	エクササイズ	0.5	43	65	108	1.08%
9	19	ぼくは、車と生きてきた	0.67	36	44	80	0.80%
9	23	Dr.泉谷の人生相談	0.67	20	10	30	0.30%
9	25	長尾智子のお菓子風土記	0.5	5	19	24	0.24%
9	26	MINIATURE CAR LIFE	0.67	11	11	22	0.22%
9	29	JAF Mate Neo	3	12	ネット無し	12	0.12%
10	11	おたより王国	2	149	119	268	2.68%
11	12	賞金クロス	1	48	202	250	2.50%
12	13	あの道がそう言った／片岡義男	2	83	120	203	2.03%
13	14	簡単！おいしい！葉膳ごはん	1	97	91	188	1.88%
14	15	CAR LIFE Q&A クルマ何でも質問箱	1	102	40	142	1.42%
15	16	JAFストーリー	1	73	62	135	1.35%
16	18	表紙・カバーストーリー(地球の仲間たち)	2	49	55	104	1.04%
17	20	文字と眼差し	1	35	38	73	0.73%
18	21	小特集・秋の5次モータースポーツ観戦ガイド	2	9	61	70	0.70%
19	24	国内交通ニュース	1	9	19	28	0.28%
20	27	JAFレポート	1	10	9	19	0.19%
21	28	デジタルコンテンツ紹介	1	4	12	16	0.16%

※2017年10月号は2記事を合算した場合は得票数502で第5位に浮上する。

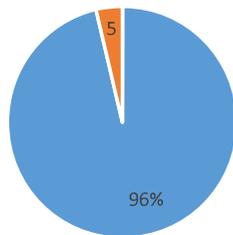
全般的に「特集」が上位にくる傾向があるが、特集のなかでもMSへの関心は低い。

資料 4

ネット動画番組『JAF MOTORSPORTS NEWS DIGEST』 番組視聴者アンケート結果

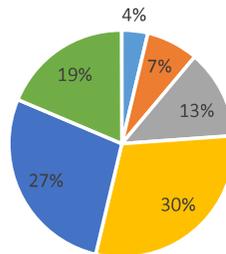
n=337

男女比率



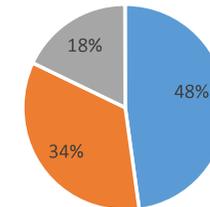
■ 男性 ■ 女性

年齢構成



■ 20歳未満 ■ 20-29歳 ■ 30-39歳 ■ 40-49歳 ■ 50-59歳 ■ 60歳以上

ライセンス取得の有無・意向



■ 持っていない。今のところ取得するつもりもない。
■ 持っていないが、取得に興味がある。
■ 持っている。

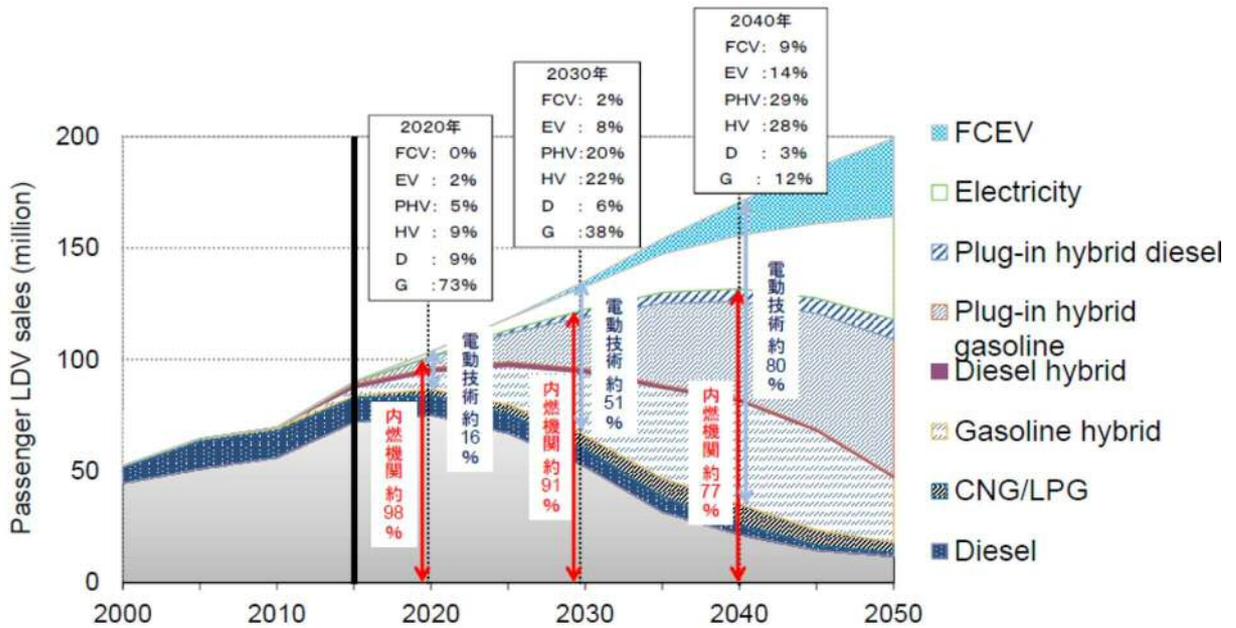
番組への感想

- 実際のレースを見て見たいと思った（男性・50歳代）
- 普段専門チャンネル等でしか見ることのできない全日本シリーズをダイジェストで見ることができ、新たにモータースポーツの面白さを発見できました。国内だけでなく、海外のモータースポーツのダイジェストもお願いします。（特に日本人ドライバーが参戦しているカテゴリー）（男性・40歳代）
- 息子が今カーレースにはまっていて、地上波で見れるものがほとんどないのでとても喜んでみていました。いろいろなカーレースのダイジェストが見られるので面白いですね。（女性・40歳代）
- 今まで関心もなかったジャンルのモータースポーツが見れ、知れてよかった。カートは初めて見たがバトル、スピードにびっくりした。見ていて興奮したしとても盛り上がった。カート大会も生で見に行きたいと...（男性・30歳代）
- 日本のモータースポーツの映像を見れるので毎度楽しみにしています。昔ジムカーナのチームにお邪魔してた時に何度か名阪か走っていたので、懐かしかったですね。山野選手もまたジムカーナに帰ってきてるのが興味深かったです。今回のカートの特集も良かったですが、これから始める人に、具体的に何が必要なかを詳しく解説してもらえるといいかもしれないです。（男性・30歳代）
- もっとモータースポーツを盛り上げていければと思いました。INDYの様に市街地でのレースが日本でも出来ればモータースポーツを身近に感じられるのではないかと思います。まだまだ日本ではモータースポーツが身近でなく、スポーツ番組と言えば、野球・サッカーばかりでこれからの子供たちは、レースの楽しさが全く解らないままだと思います。（男性・40歳代）SFやSGTはレース観戦に行った事があり知っていたが…ラリーは全然知らなかった。カート見に行った事無かったが、見ていて面白いと感じ観戦に行ってみたいと思う。（男性・40歳代）
- なかなか盛りだくさんの内容でしたが、各レースの規格、カテゴリーを事前には知っておかないと、ただレーシングカーが走っているのを見る楽しみだけで終わってしまいました。それでも十分に楽しめましたが、まだまだモータースポーツは一部の愛好者だけのものかもしれません。やはりもっとメディアに露出する事が大事だと思いますので、この番組はその先頭を走る事を期待します。（男性・60歳代）
- とても良いです。特に山哲也選手のジムカーナ解説が良かったです。ジムカーナはTV放送は皆無なので、今回のような動画は大変嬉しく、興味深く拝見させていただきました。（男性・40歳代）
- 最近モータースポーツのTV放送が少なくなっていて、webで見られるのはうれしいし、今後も継続的に放送してほしいです。（男性・40歳代）

資料 5

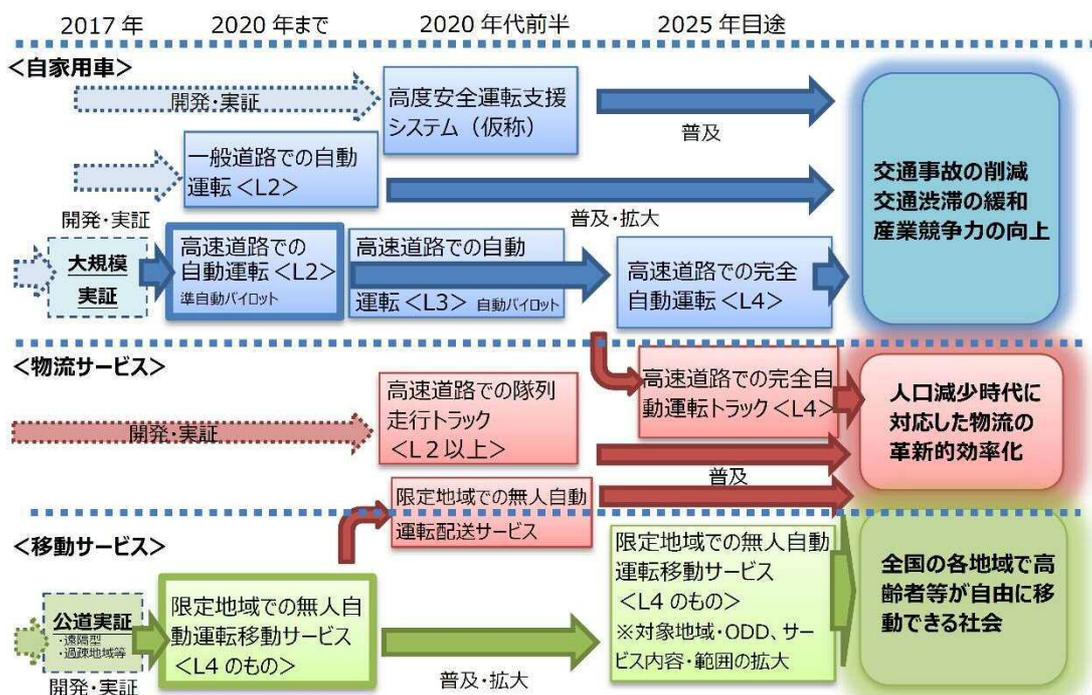
電動化や自動運転に関する動向

IEA（国際エネルギー機関）のシナリオによれば、2040年時点で約80%が電動化（ハイブリッドを含む）される見通しである。（内燃機関を保持するハイブリッド車のシェアは約77%）また、自動車メーカーの最近の発表に基づく、2020年までに900~2000万台、2025年までに4000~7000万台が普及する可能性がある」と2017年6月にIEAはコメントしている



出典：IEA ETP 2012

官民 ITS 構想・ロードマップでは局所的な完全自動運転 L4 実現を 2025 年目途に目指し、開発・実証を行っていくとしている



出典：「官民 ITS 構想・ロードマップ 2017」（高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部／平成 29 年 5 月）

資料6

オートテストの実施状況

	2016年	2017年
開催数	64回	61回
延べ参加者数	1,661名	2,421名

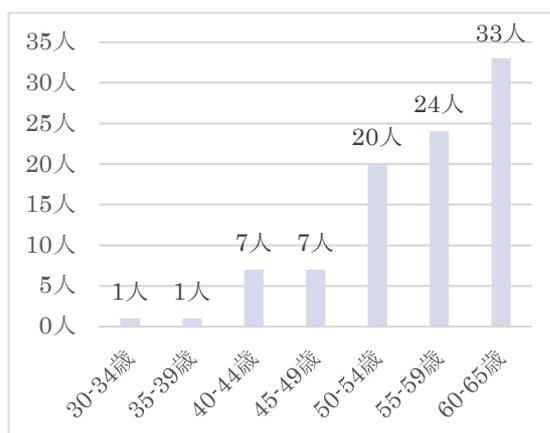
※イギリスでは年間約900回開催されている。

資料7

2018年モータースポーツ専門部会委員年齢及び男女構成

<2018年モータースポーツ専門部会委員年齢構成>

	人数
30-34歳	1人
35-39歳	1人
40-44歳	7人
45-49歳	7人
50-54歳	20人
55-59歳	24人
60-65歳	33人
総計	93人



<2018年モータースポーツ専門部会男女構成>

	人数
女性	1人
男性	92人
総計	93人

